

住みよい須磨の街づくりのために全力投球します!!

神戸市会 NEWS VOL.39

民主党神戸市会議員団

■編集・発行:民主党神戸市会議員団

〒650-8570 神戸市中央区加納町6丁目5番1号

TEL (078) 322-5844 FAX (078) 322-6161

ホームページ <http://www.kobe-minshu.jp>神戸市会
KOBEVOL.39
2012春号

「おーい」と呼んでください! いつでもどこへでも直ぐに駆けつけます。

投球
全力

須磨区のために真剣です。

神戸市会議員(須磨区) 神戸市 監査委員

大井としひろ



3月1日予算市会本会議にて、代表質疑を行いました。桜花爛漫の候、須磨区民の皆様、いかがお過ごしでしょうか。今期は、神戸市監査委員として、決算・住民監査請求等の審査や各種監査業務をはじめ、議員の日常活動に日々精励させていただいている所です。

さて、平成24年度当初予算案等を審議する第1回定例会市会は、3月29日で閉会しましたが、3月1日には、民主党会派を代表して、私、大井としひろが代表質疑に立ち、少子超高齢化社会、人口減少社会にあって、高齢者の皆さんをはじめ誰もが安心して暮らしていける社会福祉の充実や行財政改革、外郭団体の見直し、震災瓦礫の取扱い等10項目にわたり神戸市政の課題などについて矢田市長を質しました。

以下質疑の要旨を掲載します。詳細については、「おーいブログ」などをご覧ください。

災害廃棄物の受け入れについて

Q. 東日本大震災で、大量に発生した災害廃棄物の受け入れについて、本市の見解を伺いたい。

答弁(副市長) 放射性物質による影響が懸念されており、受け入れには市民の理解が不可欠で、市民の皆さんの安全・安心を確保することも重要な責務であると考えており、その点から考えると、受入については国の示す安全基準や他の自治体での受入状況等を踏まえて、慎重に検討する必要があると考えている。

INAC神戸の凱旋パレード実施について

Q. 神戸市でも六甲アイランドに神戸レディースフットボールセンターを開設し、INAC神戸レオネッサの活動を全市的に支援する体制を整えた。この神戸レディースフットボールセンターを女子サッカーのメッカとして、全国からサッカー好きの女性達が集まるグラウンドにしたいものだ。

ロンドン五輪でINAC神戸の選手の活躍が期待される中、メダルを獲得した際には、本市が音頭を取り、神戸で凱旋パレードを実施してはどうか。

答弁(市長) パレードの実施には、資金確保や警察との協議など課題が多い。メダルを獲得した場合に市民の間でパレード実施の盛り上がりがあれば、市としても前向きに検討していきたい。

更生保護サポートセンターについて

Q. 法務省では、地域の更生保護活動の拠点となる更生保護サポートセンターの設置を進めており、本市も各区への設置を実現すべきと考えるがどうか。

答弁(副市長) 平成24年度に向けて市内にも設置する方向であると聞いている。

各区に設置することについては、運営費など国の予算の問題に加えて、設置場所の確保、賃料等の課題があると認識している。今後、具体的な協力依頼に対してどのような協力ができるのか、検討していきたい。

大井としひろの街頭活動

朝の街頭活動を行っています。身近な問題でもなんでも結構です。お気軽にお声掛けください

午前6時45分～8時30分

- 月曜日…地下鉄名谷駅
- 水曜日…地下鉄妙法寺駅
- 金曜日…JR須磨駅

市政についてのご意見・ご要望をお聞かせください。

何事によらずお気軽にご相談下さい。

神戸市会議員

大井としひろ

事務所: 神戸市須磨区飛松町1丁目4番9号 吉川ビル1階 TEL・FAX 078-735-1103
自宅: 〒654-0132 神戸市須磨区多井南町22-15 TEL・FAX 078-743-6155

■メールアドレス ooi@kobe-001.com ■公式ホームページ <http://kobe-001.com>
■おーいブログ <http://blog.goo.ne.jp/kobeooi>

大井としひろ代表質疑要旨



須磨ニュータウンの高齢化・空洞化について

Q. 高齢化と空洞化が進む須磨ニュータウンを、若い定住人口を増やし再びまちを活性化していくため、例えば、空いている市営住宅を若者・子育て世帯の住宅として活用する。若い人が集うことができる空間づくり。施設の誘致を進める。保育所待機児童の無い地域にするなど、既成概念から脱却した特色あるまちづくりにより、まちの構造から変えていく必要があると考えるがどうか。

答弁(市長) 須磨ニュータウンには、多くの市営住宅ストックがあり、特定目的住宅として若年・子育て世帯向け住宅などの募集を行ってきた。今後も引き続き募集を継続し、活力ある世代の入居促進に努めていきたい。

北須磨団地では、市とパートナーシップ協定を締結し、幅広い地域課題の解決に取り組む中で、若年世帯を含む地域住民の交流の場として、地区の周辺緑地を活用した「北須磨友愛自然教材園」を地域が自律的に運営するなど、特色あるまちづくりが進められている。

このような地域の主体的な取り組みには、活動助成や専門家派遣により、市としても引き続き積極的に支援していく。

今後も、このような取組みを積み重ねていくとともに、大規模な土地利用転換で、例えば名谷駅前に工業高校

の跡地を売却することにより、大規模なファミリー型のマンションが立地をするが、大規模な土地利用転換時には民間活力を導入していくなどにより、ニュータウンの活性化につなげていきたい。

空洞化の問題は、須磨ニュータウンのみならず、県が開発された明舞団地、あるいはURの千里ニュータウンも同じような問題を抱えている。そこについて、どうしていくかという具体的な手法がまだ確立されていない段階である。今後、都市計画総局等が中心になって勉強をしていきたい。

具体的に須磨ニュータウンとなると、おそらく小学校等の統廃合等もあるかと思うので、その空いた跡地の活用も含めて対応していく。

更生保護サポートセンターについて

Q. JR三宮駅は、神戸の玄関口であり、その大改造には駅周辺の活性化だけでなく、神戸観光、神戸経済の命運がかかっていると言っても過言ではない。

阪神・阪急を含めて、三宮駅が神戸の玄関口としてふさわしい駅となるよう本市としてどのような構想を描き、戦略的に取り組もうとされているのか。

答弁(市長) JR三ノ宮駅については、実は土地が非常に狭い。この限られた空間を有効活用して、地下・地上・デッキの3層レベルの公共空間と新たな駅ビルを一体的に計画する必要がある。

こういう点で、JR西日本と合同で調査・検討を進めており、新たな駅ビルと融合した神戸の玄関口にふさわしい駅前空間計画を早急にとりまとめたい。また、合わせてポータライナーの駅舎の改造も必要なので、そういう観点からも取り組んでいきたい。

阪急三宮駅については、震災後、駅ビルが本格再建されていない中で、今後、どのように進めていくか、阪急ホールディングの角社長とも話をしているが、いろんな点で意見も持っておられるので、これについても詰めさせていただきたい。

いずれにしても、三宮駅周辺は都市再生緊急整備地域内であるので、様々な都市計画制度を活用しながら、鉄道事業者だけでなく周辺の民間事業者も含め、民間活力の導入をはかりながら、安全で快適な都市空間の実現を目指していきたい。

「平清盛」を起爆剤に本市の観光行政は

Q. 大河ドラマの終了後も「風見鶏」のように神戸観光の礎となり続けるため、全国に向けて「KOBE de 清盛」を発信し、人の賑わいを創出するための仕掛けづくりが必要と考えるが、どのように取り組むのか。

答弁(市長) 大河ドラマが1月から始まり、ドラマ館・歴史館が1月21日にオープンし、約1ヶ月が経過したところである。

現在のところ、団体旅行で多くの方々にお越しいただいているので、今週末には両館合計で5万人の入館者数を達成する見込みである。当初目標は両館合計60万人としており、今までの大河ドラマのドラマ館などの傾向を見ると、4、5、6月そして10、11月にピークを迎える。今後、行楽シーズンを控え、より多くのお客様にお越しただけるものと考えている。

また、鉄道事業者によるラッピングトレインや定期観光バスの運行、市立博物館での特別展などの関連事業も広がりを見せており、関連事業と連携して、「KOBE de 清盛」をより大きな動きとしていきたい。

旅行代理店や鉄道事業者と一緒に、全国に向け



て積極的な広報PR活動を展開していき、ドラマ終了後も、平清盛をはじめ神戸の歴史資源が神戸観光の新たな魅力の一つとして発信していくことが、滞在型観光にとっても重要となると考えている。

「光の都」神戸の推進について

Q. 我が会派が提言させていただいた「光の都」神戸の実現に向け、今回の予算でフラワーロード光のミュージアムの具現化や神戸大橋のライトアップリニューアルの検討着手、夜景観光の振興、夜間景観形成の推進など、前向きに取り組んでいただいていることについて評価している。

最近では電力需要が逼迫しており、潤沢に電気を使うことが難しい時勢かもしれないが、LED等を使った省電力器材の導入や照明の仕方を工夫するなどにより、まちのたたずまいが劇的に変化する。

洗練された都市のたたずまいを見ていただき、観光客を呼び込む夜間景観の仕掛けをあちらこちらに組み込むことで、夜間観光を推進し、滞在型観光で入込観光客数3,500万人の達成に向けて取り組んでいかなければならない。

各局の事業が互いに相乗効果をもたらすよう全庁挙げた取り組みが大切だと思うがどうか。

答弁(市長) 今後とも、都心ウォーターフロント地域を対象にした神戸市の夜間形成計画の実施計画を進めようということで、3月中にこの推進委員の皆さんあるいは事業者の方々と一緒に、策定をしたいと考えている。

また、昨年6月から照明の専門家の皆さんにもお集まりいただき、計画検討会を立ち上げ、事務局である都市計画総局がやっている。

この中では、重点地域を設定しようと税関線沿道、旧居留地、中突堤周辺など7つの重点地区を設定し、重点テーマとして、光の質をどう上げていくか、また環境への配慮をどうするかというようなコンセプトを中で検討している。

さらに昨年の12月からは、まちづくり団体、経済団体、旅行事業者も入って、神戸市夜間景観形成の実施計画推進委員会というものを立ち上げて、具体的な施策について、照明実験とか、あるいは地域団体との夜間まち歩きなどを実施しながら検証をしている。